

5 自主防災組織

(1) 組織体制（災害対策本部）

地域に居住及び勤務する広範な人員で構成する等、地域を網羅するとともに、女性や高齢者、障がい者など多様な視点を取り入れた防災体制を確立します。

災害時の安否確認、救出・救護、初期消火、避難行動要支援者支援、情報の収集・伝達など自助、共助の取組みを組織的に行うことができるよう防災訓練などを実施し、その実行力の確保に努めます。

組織体制（災害対策本部）班編成

班名	平常時の役割	災害時の役割
本部長 副本部長	全体調整 関係機関との事前調整 組織の統括	関係機関との連絡調整 企画運営 組織の統括 組織内の連絡調整・指揮
住民等総務班	全体調整 関係機関との事前調整 避難所の点検 住民に対する防災知識の普及・啓発 防災訓練の実施	組織全般の庶務、全体調整 関係機関との連絡調整 避難所の開設 被害・避難状況の全体把握
情報班	啓発・広報	災害情報の収集・伝達 関係機関との情報伝達
初期消火班	器具の整備・点検 地域の防災点検	可搬式ポンプ・消火器などによる 初期消火
救出・救護班	資機材・器具の整備・点検	負傷者の救出・応急手当・救護所 への搬送
避難・誘導班	安否確認のための名簿などの 作成 避難経路の点検 防災マップ等の作成 避難行動要支援者支援の検討	住民の安否確認・避難誘導 避難行動要支援者支援
給食・給水班	備蓄物資・器具の整備・点検	炊き出し等の給食・給水活動

※ 町会単位でも、班編成を行います。

(2) 避難所運営委員会

避難所を運営するため、あらかじめ、下記のような組織構成を考えておきます。委員長は、自主防災組織から選出します。なお、委員長が被災することも考え、副委員長を複数名選出します。

- ア. 前記、(1) 組織体制の各班は順次、避難所運営委員会組織に移行していきます。
- イ. 各部は、連絡・伝達をしやすいなど、効率的な運営をするため、必要に応じて、町会または町丁目ごとに代表者を選び、その役割を分担してもらいます。
- ウ. 男女共同参画や高齢者、障がい者、ボランティアなど、多様な主体の参画を促進するとともに、要配慮者に配慮するように努めます。
- エ. 避難所開設当初は、地域の町会役員、地域防災リーダーや女性防火クラブが中心となり、避難所運営委員会を立ち上げて運営しますが、一定期間経過後は、避難者の中から代表して避難所運営委員会のメンバーを構成します。

避難所運営委員会は下記で構成します（開設当初）

- ア. 自主防災組織
- イ. 施設管理者（学校等）
- ウ. 区役所（区役所から派遣された避難所主任及び職員）

部編成 [大阪市自主防災活動マニュアル（避難所運営マニュアル）準拠]

部名	役割
委員長、副委員長	施設管理者や関係機関との連絡調整 企画運営 組織の統括、組織内の連絡調整・指揮
総務部	関係機関との情報収集・伝達 避難者への情報提供 人的応援の要請 その他、他部に属さないこと
管理部	避難者の把握・リスト作成。避難者等の出入所管理 避難スペースの配分・誘導 施設・設備の確認・警備 ごみの集約・清掃 避難所施設の管理 その他施設に関すること
救護部	応急救護所の確保、傷病者の救護・把握 要配慮者への対応 その他、救護に関すること

食糧部	飲料水の確保 炊き出し・配給 その他、食糧に関すること
物資部	救援物資・調達物資の集約・管理及び避難者への配給 その他、物資に関すること
支援部	各部への人的支援 緊急事態時の支援、職業専門職による支援

(3) 自主防災訓練の実施

災害発生時、地域住民が適切な行動ができるよう、区役所や消防署等とも連携しながら、次の訓練を中心とした自主防災訓練を毎年実施します。

- ア 避難所開設・運営訓練
- イ 情報収集・伝達訓練
- ウ 初期消火訓練
- エ 救出・救護訓練
- オ 避難誘導・安否確認訓練
- カ 給食・給水訓練
- ク 災害体験訓練

訓練の実施後は、訓練結果を検証し、次回訓練に反映するなど、定期的に活動内容の見直しを行います。

(4) 避難所、器具、資器材、備蓄物資等の点検

避難所、器具、資器材、備蓄物資等の点検を定期的実施します。

(5) 避難行動要支援者支援の検討

災害発生時、避難行動要支援者の安否確認や安全な場所への避難誘導、避難先の環境等の状況に応じた生活支援等が行えるよう、区役所や消防署等とも連携しながら、支援対策に取り組みます。

- ア 避難行動要支援者名簿の作成
- イ 支援体制の形成
- ウ 支援計画の作成

避難行動要支援者名簿や支援計画について、定期的な更新を行うとともに、対象者の拡大についても検討していきます。

6 災害発生時の避難行動

(1) 地震

日頃の備え

- 耐震改修、家具転倒防止
- 非常備蓄品等の準備
- 家族の連絡方法確認
- 避難所、避難ルートの確認
- 防災訓練への参加 など

防災便利帳・市民防災
マニュアル等参照

地震発生

安全確保

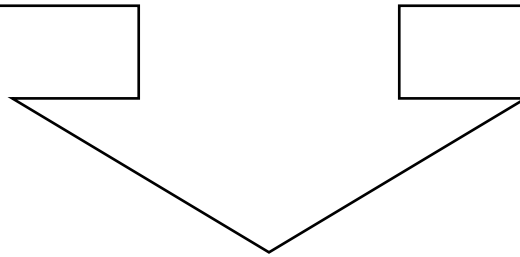
- 自分や家族の身を守る
- テレビ、ラジオ、インターネットなどから情報を取得する

一時避難場所への避難

- 履きなれたくつを履く
- ガスの元栓、ブレーカーをチェックする
- 連絡メモを残す
- 非常持ち出し品を持ち出す
- 隣近所に声をかける

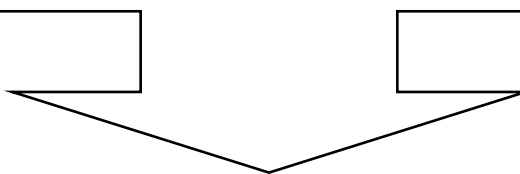
一時避難場所での確認

- 隣近所で安否を確認しあい、町会代表者に報告する
- 町会代表者は安否確認状況を把握し、住民等に協力を求め、確認できない地域住民の安否を確認するよう努める
- 救出・救護が必要な場合は、町会代表者は住民等に協力を求め、救出・救護に努める
- 火事が発生した場合は、町会代表者は住民等に協力を求め、初期消火に努める
- 災害時避難所の鍵の保管者は災害時避難所に向かい、開錠する



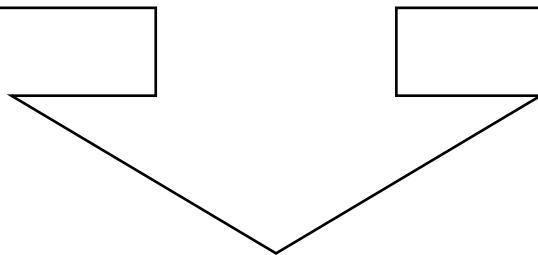
災害時避難所への避難

- できるだけ集団で避難する。
- 安全な道を通り避難する
- 町会代表者は、住民等に協力を求め、避難行動要支援者を支援するよう努める
- 被害状況を確認しながら避難する



災害時避難所での確認

- 本部長、副本部長、総務班は災害対策本部を立ち上げる
- 町会代表者は、安否確認、救出・救護、初期消火、被害状況等を災害対策本部に報告する
- 情報班は災害情報等を集約する
- 初期・消火班は住民等に協力を求め、初期消火活動に努める
- 救出・救護班は住民等に協力を求め、救出・救護活動に努める
- 避難誘導班は住民等に協力を求め、安否確認・避難誘導活動に努める。
- 避難者は自主防災組織の指示に従うとともに、災害応急活動に協力する



災害時避難所運営

- 委員長、副委員長は避難者に協力を求め、避難所運営委員会を立ち上げ、避難所運営にあたる
- 食糧部は避難者に協力を求め、炊き出し等の給食・給水活動に努める
- 避難者は避難所運営委員会の指示に従うとともに、避難所運営に協力する

(2) 風水害

日頃の備え

- 側溝や排水溝など家のまわりの点検
- 非常備蓄品等の準備
- 家族の連絡方法確認
- 避難所、避難ルートの確認
- 防災訓練への参加 など

防災便利帳・市民防災
マニュアル、水害ハザ
ードマップ等参照

風水害発生のおそれ

安全確保

- テレビ、ラジオ、インターネットなどから気象情報を取得する
- 早めに避難する
- むやみに外出しない

避難情報

避難するときは

- 動きやすく安全な格好をする
- 浸水している状況では近くの高い建物に避難する
- やむを得ず浸水の中を移動するときは
 - 深さに注意する（マンホールの蓋が無くなっている場合もある）
 - 足元に注意する
 - ひとりで行動しない
 - 子どもや高齢者などに配慮する

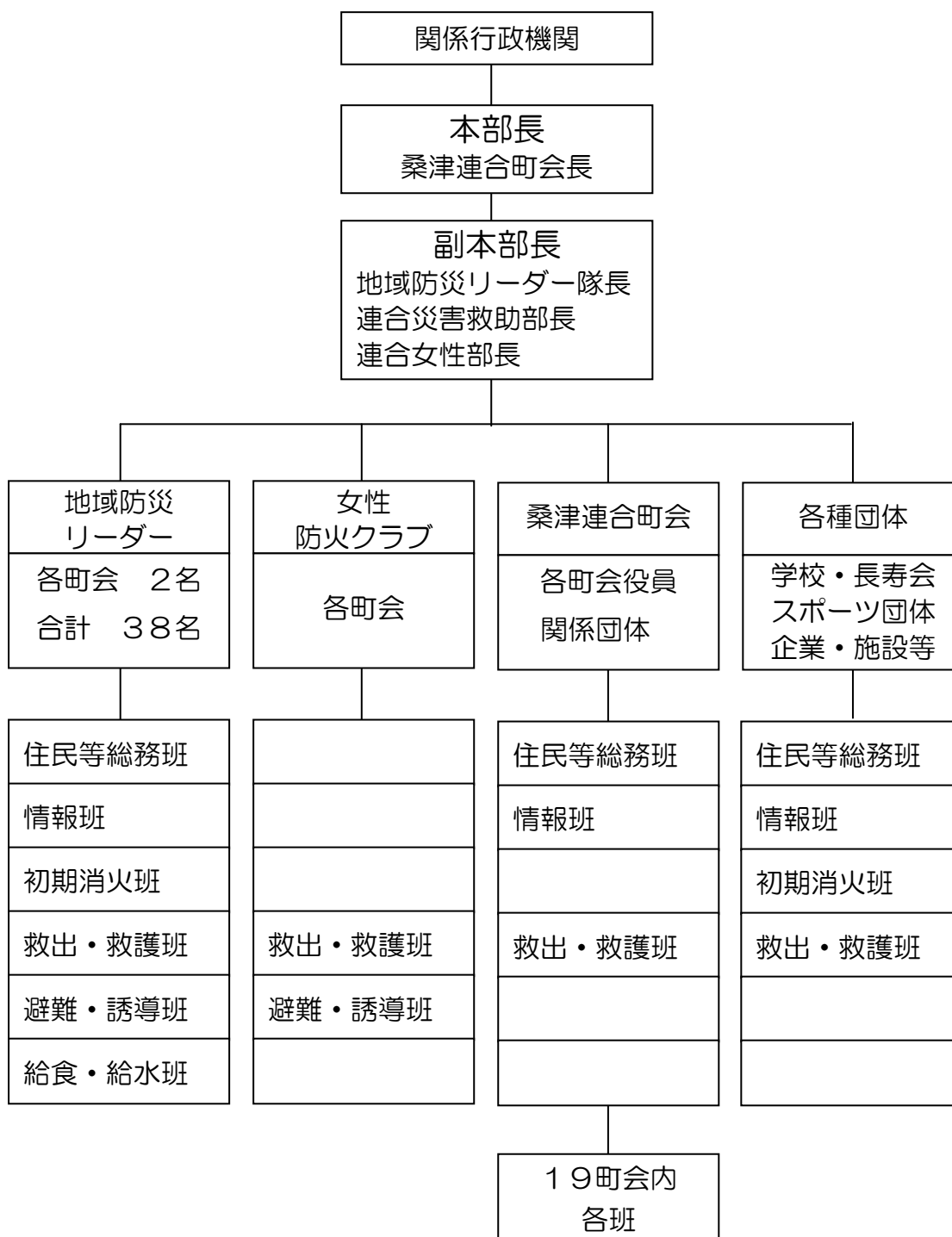
安全な場所への避難

- 一、二階建の木造住宅やマンションの低層階など、浸水のおそれがある階に居住している場合
⇒災害時避難所や近くの高い建物に避難する
- マンションの三階以上など浸水のおそれのない階に居住している場合
⇒自宅の安全な場所で待機し、安全を確保する

* 災害時避難所を開設したときは
被害の程度や避難状況に応じて「(1) 地震」に準じて必要な体制
を取り、避難所運営にあたります

<付記> 5 自主防災組織

(1) 組織体制（災害対策本部組織図）



災害対策本部の緊急行動体制

1. 初期の活動

- 災害発生時のパニック状況の中で、役割分担による各組織の行動体制が急務である
- 指揮系統が確立するまでの各部署の活動内容について、所属組織の行動内容について事前の理解と緊急時対策
- 人員の確保と安全管理

2. 関係機関との連携

- 情報の整理・収集と伝達方法
- 災害対策用装備の持ち出し及び搬送と災害現場での活用
- 人員の確保と安全管理

3. 防災備品の一覧「桑津会館で保管リスト」 (区役所からの資材配備品)

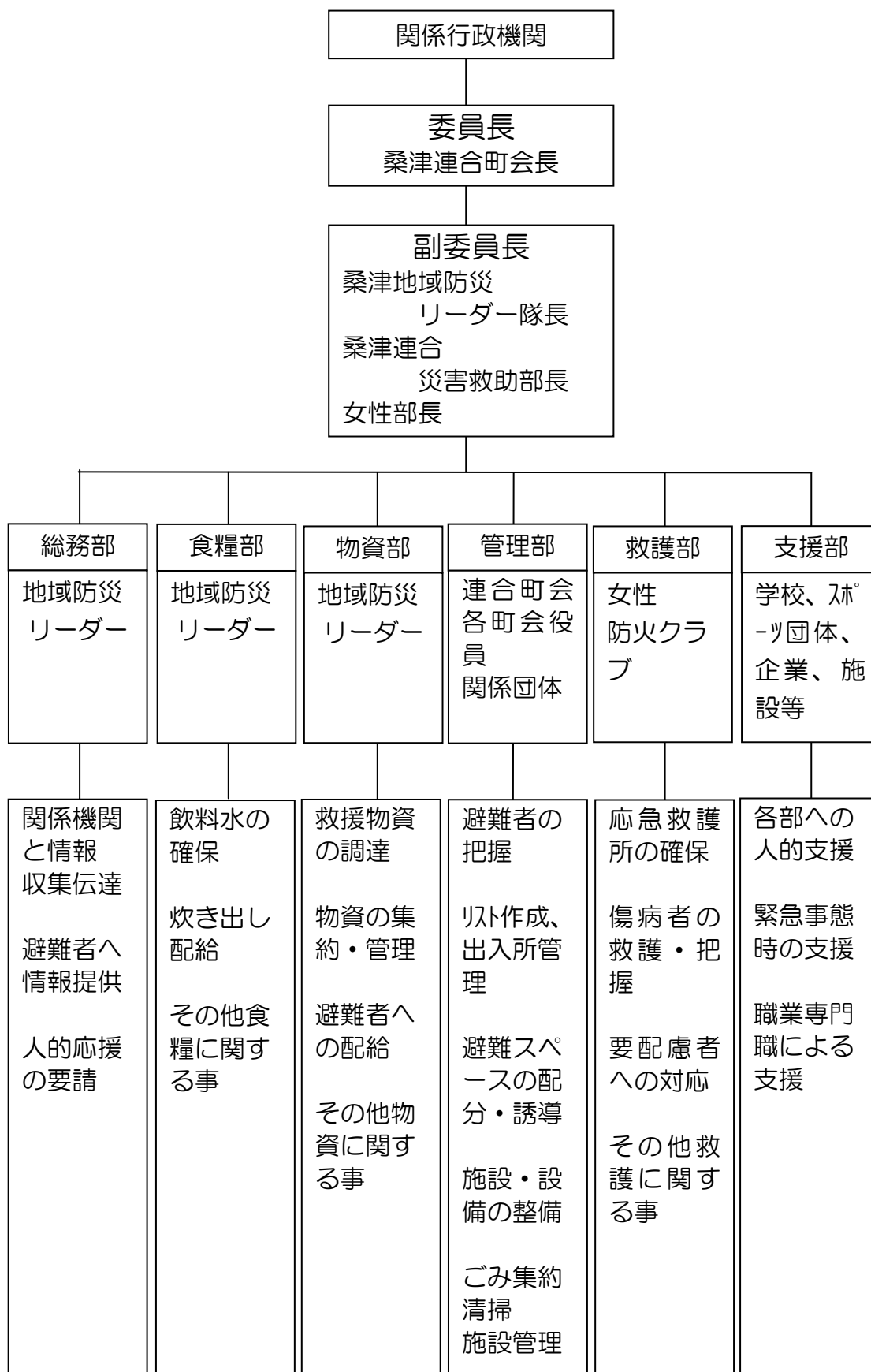
2016. 3 現在

備品名	数量	備品名	数量
防災用かまどセット(5升炊き)	2	水杓、火はさみセット	2
炊き出し用薪(燻薪5kg)	5	大皿(50枚)	2
エコ容器(お椀50枚・1組)	10	エコ容器(大皿50枚・1組)	10
救急セット(50人分)	1	ハンドマイク(拡声器)	3
ランタンセット	2	ウエットタオル(1箱・50袋)	1
ポータブルテント	2	ポータブルトイレ(キューブル)	2
ポータブルトイレ(ミニマル)	3	トイレ処理セット(100回分)	1
キャリーフ(担架)	2	ディスプレイレジャー(担架)	2
アルミブランケット	20	レスキュー簡易寝袋	4
移動式救助工具セット(標準)	1	折り畳みリヤカー	2
救急用品セット(20人分)	2	ワンタッチトイレ	2
トイレ処理セット(100回分)	2	トイレ処理セット(50回分)	5
ライト&ホイッスル	60		

追記 ■災害備蓄保存用パン(1箱24缶・3種類)6箱 賞味期限

■保存水(500ml×24本)1箱、(1500ml×8本)1箱 保存期限

(2) 避難所運営委員会（避難所運営組織図）



避難所運営委員会の緊急行動体制

1. 初期の活動

- 災害発生時のパニック状況の中で、役割分担による各組織の行動体制が急務である。
- 指揮系統が確立するまでの各部署の活動内容について、所属組織の行動内容について事前の理解と緊急時対策
- 避難者の人員把握と安全管理

2. 関係機関等との連携

- 情報の整理・収集と伝達方法、特に医療機関との連携
- 生活備品の確保と配給等の方策
- 健常者の避難所運営への支援と安全管理

3. 避難誘導の対応

- 各地域の一時避難場所から災害時避難所への適切な誘導
- 病人、負傷者等の手当と看護場所の確保
- 障害者、老人、子ども等の居場所作りと対応

4. 防災備品の一覧「桑津小学校・東住吉中学校保管リスト」 (区役所からの資材配備品)

2016. 3 現在

備品名	数量	備品名	数量
毛布	300	簡易トイレ(本体)	4
水缶	1800	簡易トイレ(消耗品)	8
ブランケット	50	アルファ化米・お粥	200
懐中電灯	20	乾パン	128
ラジオ	10	救助資機材セット	1
ブルーシート	120		
日用品セット	120		
発電機(ガス式)	4	筆記用具等	一式
工業扇	4	台車	1
ガスコンロ	3	コードリール(小学校のみ)	1
伝言シート	1セット		

可搬式ポンプ庫の設置場所及び初期消火訓練等の企画 ・実施

1. 設置場所 桑津北公園、桑津公園、桑津東公園、駒川北公園

2016.3 現在

備 品 名	数量	備 品 名	数量
可搬式ポンプ関係備品	1 セット	ロープ	1
バール	3	かけや	1
のこぎり	3	布担架	1
ジャッキ	2	救急箱	1 セット
シャベル	4		

2. 地域の保管備品及び倉庫等は検討中

3. 初期消火訓練など

○順番に各公園において、毎年1回地域防災リーダーをはじめ近隣町会を中心に訓練を実施

○可搬式ポンプでの初期消火訓練、応急手当、AEDの講習、ロープワーク、救急搬送訓練等の活動

○毎年8月最終日曜日「桑津連合防災の日」(そなえよつねに) を中心に、各町会単位で訓練の企画と実施